

シミュレーションゲームによる市民との対話を通じた公共施設再編計画

パシフィックコンサルタンツ (株)	正会員	大石 健二
パシフィックコンサルタンツ (株)	正会員	木守 岳広
パシフィックコンサルタンツ (株)		金子 幸司
パシフィックコンサルタンツ (株)		○村上潤一郎
鎌倉市 経営企画部 経営企画課		下平 和彦
鎌倉市 経営企画部 経営企画課		若林 篤

1. はじめに

近年、高度経済成長期に整備された公共施設が老朽化を迎えつつあり、全国各地で学校や庁舎等の天井や外壁の剥落や雨漏り等の損傷事例が見られている。また、地方財政は年々厳しさを増しており、更新需要へ対応するための財源確保の問題が多く自治体で懸念されている。このような背景から、平成25年1月に総務省より、全国の各地方自治体に向けて公共施設等総合管理計画の策定にあたっての指針(案)が通達された。

各自治体では、公共施設再編計画の検討が進められており、公共サービスを維持しつつ保有資産を適正化する取組みが求められている。しかし、施設利用者の要望を反映した計画とする必要があり、各方面で相互理解を深めるため様々な取組みがなされているが、使用者の要望を得る手法は十分整備されているとはいえない。

このような観点から、施設利用者の要望を計画に反映するための手法について検討し、公共施設の機能を再構築するVEの機能展開を応用した新しいシミュレーションゲームを考案した。本稿では、その概要と、新たな手法を用いて実施した市民との対話の事例を紹介する。

2. 公共施設再編計画について

2. 1. 公共施設再編計画の留意点

公共施設では、多様なサービスを提供しているため、公共施設の再編を検討する際には、施設とサービスを切り分けて考える必要がある(図-1)。

公共施設再編計画(以下、再編計画)では、この考えに従って公共施設のあり方を見直すことで、サービスを維持しつつ効率的に施設を集約することが可能となる。

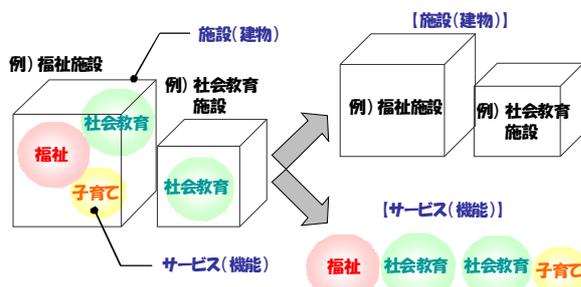


図-1 公共施設が提供するサービスの概念

しかし、再編計画の立案においては、今後どの施設やサービスを集約の対象とするか取捨選択の判断が求められる。そのため、市民の潜在ニーズを把握することが必要であり、利害調整が発生することが問題点として挙げられている。

2. 2. 市民との対話手法

市民の要望を知るために、ワークショップやアンケートを実施する例は多い。しかし、多人数が参加する従来型のワークショップでは本質的な利害調整が難しく、アンケートでは双方向の対話ができない。また、行政側が事前に計画案を作成し、その案に対し市民側の意見を募る方法では、計画案を前提とした意見しか得られず、さらに意見は細部に限定される傾向にある。



図-2 ワークショップの様子

我々は、市民の公共施設に対する潜在ニーズを理解するために、市民との対話手法について新たなアプローチを考案した。その手法は、ワークショップの中で市民が自らの問題として公共施設再編を考える環境を提供し、シミュレーションゲーム(図-2)を通じて、検討する過程から市民の要望を抽出するというものである。

キーワード 公共施設再編, 利用者, VE, ワークショップ, 利害調整

連絡先 〒163-6018 東京都多摩市関戸一丁目7番地5 パシフィックコンサルタンツ(株) TEL042-372-7426

3. シミュレーションゲームの設計

3. 1. ゲームの概要

参加者数人でグループを作り、共同で公共施設の再編を検討するゲームである。手順を図-3に示す。

事前に、公共施設再編の基礎情報を講義形式で説明し、グループ内での意見交換を行う際の判断基準の考え方についてご理解いただく。意見交換では、公共施設を施設とサービスに分けたカードを用いて、公共施設で提供する様々なサービスを評価視点のもとにサービスの並び替えを行い、グループの判断基準を醸成する。

次に、公共施設再編シミュレーションゲームを行う。ゲームでは、再編計画のプロセスを適切に再現しつつ、参加者が短時間で検討できる程度に地域や公共施設をモデル化する必要がある。本題材では、施設とサービスに係るコストをポイントに置き換え、再編計画におけるコスト削減の目標数値の達成を前提としている。

なお、実際の再編計画において必要となる検討項目(土地の売却、サービスの民営化など)をイベントステージとしてゲームに組み込んでいる。

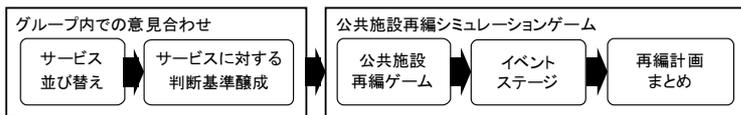


図-3 手順図

3. 2. 判断基準の醸成

判断基準は利害調整を図る上でのものさしになる。今回は、下記3つの評価視点を基準として設定した。

- ①住居の近くで提供すべきサービスと離れていても構わないサービス
- ②市民の税金で負担すべきサービスと利用者が負担すべきサービス
- ③市民ニーズと合致しているサービスと合致していないサービス

3. 3. 対象地域と公共施設のモデル化

対象地域は地形的特性を踏まえ、市内の主要駅からの歩行限界で設定した。また、公共施設で提供するサービスの種類は、数が多すぎると複雑になるため、市民がよく利用するサービスの中から心理的に認知しやすい10種類程度とした。図-4にモデルを例示する。

なお、施設とサービスに設定したポイントは、施設規模、建設経過年、事業内容等から重み付けを行い設定している。



図-4 地域と施設のモデル化の例

4. 実施例

10~20年後の地域住民になったつもりで、公共サービスを維持しつつ公共施設を再編していくシミュレーションゲーム(参加者30人程度、2日間各3時間)を行った。

ゲームの目標は、施設カードとサービスカードに置き換えられた公共施設について、財政負担を考慮した目標コストを満足するようにカードを移動しながら再編計画案を完成させることである。

グループ編制は、自由に意見が述べやすいよう少人数とし、意見が特定の層に偏らないように、高齢者、学生、子育て夫婦、独身会社員などの役割を設定した。

結果を表-1に総括する。このプロセスにより、市民が自ら考え再編計画を理解する一助とすることができた。

表-1 各グループの提案内容

題	コンセプト	再編の考え方
1	学校を活用しよう	・学校は適度に分散しており活用しやすい
2	私も選んで	・子どもからお年寄りまで使える施設・交流する施設 ・自分にとって気持ちのいいまち
3	世代間交流と利便性	・サービスを減らさず、老朽化した施設を減らす
4	生活密着バランスタウン	・地域のバランスを考慮 ・子育て関係をまとめる ・関連サービスをまとめ、相乗効果を図る ・駅よりも住まいの近くにサービス配置 ・趣味の活動は遠くてもOK
5	ふれあいの街	・子どもからお年寄りまでふれ合いのチャンスを増やす(見守りができる) ・収益を考慮した料金設定 ・コンパクト化
6	鎌倉に自館を取り戻す!	・行政センターを核に機能拡充(機能統合) ・子どもとお年寄りにやさしい、高齢者に配慮したサービス ・図書館(蔵書)を駅近くに集中 ・無駄を減らす(跡地等の有効活用) ・ネーミングライツで財源確保

5. 考察

市民がサービスの重要度について議論する過程から、何を重視しているか考え方や指標を得ることができ、今後の政策決定の参考とすることができた。

また、市民(施設利用者)が主役となった検討は、立案する再編計画に対する施設利用者の満足度、合意形成、提供するサービスの向上につながるとともに、事業を円滑に進める上で有効であると考えられる。

6. おわりに

新たな手法にご理解を頂き、積極的にワークショップへ参加して頂いた鎌倉市民の方々へ謝意を表します。